

## テュートリアル課題 咳がとまらない

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/29041">http://hdl.handle.net/10470/29041</a>

2007年度 Block. 6 後期

課 題 No. 7

「咳がとまらない」



※新で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください

加藤 隆文 (麻醉科学)

2007-B6-T2-7

課題名：咳がとまらない

シート1

東民夫さんは59歳。生来健康で人間ドックで異常を指摘されたことはありませんでした。シンガポールに出張し、帰国後、咳と痰が出現。1ヶ月しても改善がみられず、外来を受診しました。

提示資料    なし

抽出が期待される事項

- ・咳と痰がなかなか治らない  
→診断仮説をたて鑑別診断を行うことができる (A-1)。

シート 2

肺に影が見つかった東さんは、外来でたくさんの検査を受け、入院治療をすすめられました

提示資料

- 1) 血算（資料 1-1）、血液生化学（資料 1-2）
- 2) 患者病歴（資料 2）
- 3) 正常胸部 X 線写真（資料 3-1）、患者胸部 X 線写真（資料 3-2）
- 4) 心電図（資料 4）
- 5) 胸部 CT 写真（資料 5）
- 6) 気管支鏡所見（資料 6-1）、細胞診検査所見（資料 6-2）
- 7) 肺機能検査所見（資料 7）
- 8) 腫瘍マーカー値（資料 8-1）、動脈血ガスデータ（資料 8-2）
- 9) 脳 MRI（資料 9）
- 10) 骨シンチ（資料 10）
- 11) PET（資料 11）

抽出が期待される事項

- ・ 肺に影が見つかった東さん
- ・ 外来でたくさん検査を受けた
  - どのような情報を得たいか、どのような検査が必要か
  - 具体的に挙げる。オンデマンドにて供覧
  - 胸部 X 線写真については、正常と患者の 2 枚で 読影できるよう導く。

シート3

肺がんの診断で入院し、精密検査の結果、転移がみつかりました。主治医からの説明を聞き、“手術できないとは、もうだめなのか”と、一時は絶望的になっていた東さんですが、仕事の面で、何としてもやり遂げたいプロジェクトがあったのでこれを目標に治療を頑張ろうと主治医と治療法を相談しました。

提示資料 なし

抽出が期待される事項

- ・ 肺がん治療目的で入院
- ・ 転移がみつかり治療方針を決める
  - 肺がんの一般的治療について述べることができる、特に手術適応外となったケースについて。(B-1) (C-1)
- ・ 主治医からの説明
  - 悪性疾患の告知の問題  
(担当医から患者さんと家族に説明をしている設定で学生にロールプレイをしてもらう。)(B-3)
- ・ 主治医の説明を聞き、絶望的になった東さん
  - バッドニュースの伝え方について考え、告知と告知後の患者の不安について理解し説明できる。(B-3)

シート4

化学療法と放射線治療を終え退院し、仕事と通院の日々が続いていました。半年くらい過ぎた頃、足の痛みと痺れを自覚するようになってきました。痛みは日に日に増し、痛みと不安で夜も眠れなくなりました。

提示資料

1) 腰椎 MRI 写真 (資料 12)

抽出が期待される事項

- ・ 退院し、仕事と通院の日々
  - 壮年期の罹患による、社会的、経済的影響について理解できる。(C-2)
- ・ 足の痛みと痺れ
  - がん患者にとって痛みが深刻な問題であることを理解できる。(A-2)
  - 骨転移による骨由来の痛みと、脊柱管破壊による神経因性疼痛の違いが理解できる。(B-4)
- ・ ターミナルケア・在宅療法 (C-4)

シート5

足腰の痛みが悪化して再び入院となりました。緩和ケア担当医師の診察を受け、いろいろな薬の処方を受けました。その中には麻薬が含まれているとの説明がありました。麻薬は怖い薬だとの漠然としたイメージを持っていましたが、がんの痛みと一緒に戦いましょうという緩和ケア医に言われ内服することにしました。便秘ぎみとなり緩下剤の併用が必要でした。一日のうち数回ひどい痛みが感じられました。これに備え頓用の経口モルヒネ製剤が用意されましたが、金庫保管しなくてはならないとのことで、使用したいときに看護師さんの手を煩わさなければならないことに気が引けました。

提示資料 なし

抽出が期待される事項

- ・いろいろな薬の処方を受けました。その中には麻薬が含まれているとの説明がありました  
→WHO方式がん疼痛治療法を理解し説明できる。(A-3)
- ・麻薬は怖い薬だとの漠然としたイメージ  
→がん患者の心理過程について知る。(A-4)
- ・便秘ぎみとなり緩下剤の併用が必要でした。  
→がん性疼痛に用いるオピオイド製剤の副作用を知る。(B-2)
- ・備え頓用の経口モルヒネ製剤が用意されましたが、金庫保管しなくてはならない  
→麻薬取締法により医療用麻薬についても管理や保管に制限がかかることを知る。(C-3)